

報道関係 各位

2018年8月27日
株式会社日本レースプロモーション

9月8日(土)～9日(日)
2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦 岡山国際サーキット
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、9月8日(土)～9日(日)の2日間、岡山県美作市 岡山国際サーキット(1周:3.703km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第6戦を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース68周(251.804km)にて争われます。

第6戦が行われる岡山国際サーキットは、コース幅やエスケープゾーンが狭く、回り込むようなコーナーが多いレイアウトの為、「抜きづらいサーキット」と言われており、スターティンググリッドを決める予選が非常に重要となります。その第6戦の予選では、スーパーフォーミュラとして初の試みとなる、予選でのオーバーテイクシステム(OTS)の使用を可能とする特別ルールを設定。この特別ルールは、予選Q3でのみ2回(20秒間×2回)使用することが可能で、計測周にタイミング良く使用出来れば、1994年にアイルトン・セナが記録したコースレコードを塗り替える可能性もあり注目が集まります。

前戦 ツインリンクもてぎ大会では、戦略の多様化により随所でオーバーテイクが繰り返される熾烈な戦いの中、石浦 宏明(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)が、ポールトゥウィンで今シーズン初優勝を果たしました。もてぎ大会を終えた現在のドライバーランキングは、もてぎで着実に3位表彰台を獲得したニック・キャンディ(コンドー レーシング)が、27ポイントでランキングトップに立ち、ランキングトップだった山本 尚貴(チーム・ムゲン)は、2ポイントを獲得したものの24ポイントで2位、ポールトゥインを飾った石浦は、山本と同じく24ポイントとなりましたが高得点獲得回数の差で3位となっています。一見、シリーズチャンピオン争いはこの3人に絞られた感がありますが、スーパーフォーミュラではポールポジションと優勝で最大11ポイント獲得が可能であること、更に最終戦の勝者にはボーナスポイント3点が加算される為、続く平川 亮(イトウチュウエネクス チーム インパル)、関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)、中嶋一貴(バンテリチン チーム トムス)らにとっても、チャンピオン争いに可能性を残す為には、ここでのポイント獲得は必須。予選Q3でのOTSの使用、決勝レースでの2スペクタタイヤ制と初尽くしとなるこの岡山大会。どんな戦略で挑むのか選手、チームにとって非常に重要な一戦となります。

なお、WEC 出場の為前戦を欠場した、小林 可夢偉(カロツツェリア チーム ケーシーエムジー)と中嶋 一貴(バンテリチン チーム トムス)は、今大会よりシリーズに復帰いたします。



前戦、ツインリンクもてぎ大会をポールトゥウィンで今季初優勝を果たし、ランキング3位に浮上した
石浦 宏明(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)

公式予選

Q1(20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定。

Q2(7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定。

Q3(7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選で好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

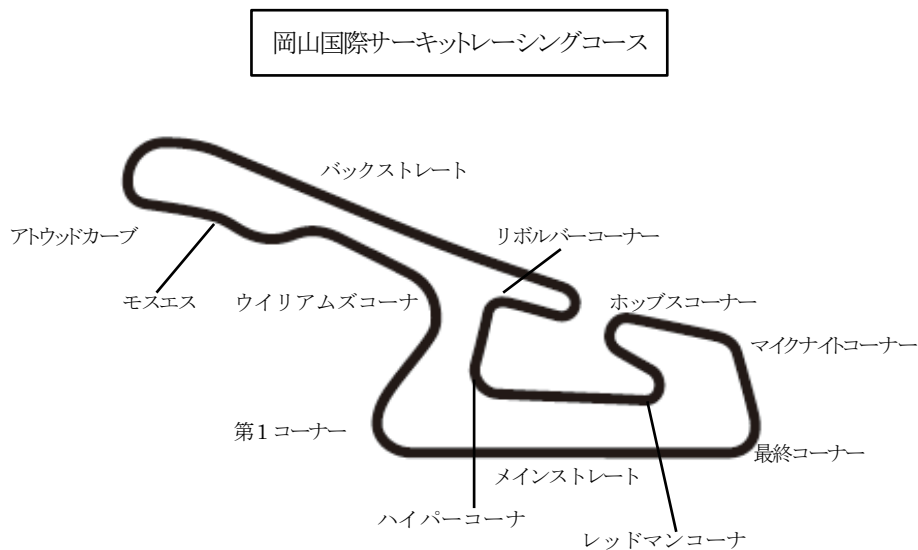
※Q3のみOTS(オーバーテイクシステム)を2回、使用可能。

決勝レース

68周 (1周:3.703km×68周=251.804km)

岡山国際サーキットについて

2本の長いストレートと大小13のコーナーからなるテクニカルコースで、各コーナーには往年の名ドライバーの名前がついている。迫力ある見どころとしては、スタート直後の1コーナー、ヘアピンからリボルバーコーナーの下り、Wヘアピン(レッドマン・ホップスコーナー)。コースと観客の距離が近く、コース全長3.7km、レースの迫力をより身近に感じることができます。



2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦 エントリーリスト

2018年8月27日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA R14A
2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
3	ニック・キャンディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドー レーシング)	近藤 真彦	TOYOTA R14A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	1993/10/13	日本/埼玉県			
7	トム・ディルマン Tom Dillmann	1989/ 4/ 6	フランス	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA R14A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアル レーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA R14A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA R14A
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA R14A
37	ジェームス・ロシター James Rossiter	1983/ 8/25	イギリス			
50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	1986/ 12/ 9	日本/東京都	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	本山 哲	HONDA HR-417E
64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

(車両: SF14、タイヤ: ヨコハマ)

2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	27	2	0	8	11	6	0	0
2	16	山本 高貴 Naoki Yamamoto	24	11	0	10	1	2	0	0
3	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	24	5	0	0	8	11	0	0
4	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	14	0	1	0	5	8	0	0
5	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	11	8	0	0	3	0	0	0
6	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	11	1	0	6	4	0	0	0
7	5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	10	6	0	3	0	1	0	0
8	2	國本 雄資 Yuji Kunimoto	6	0	0	0	6	0	0	0
9	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	6	0	0	0	2	4	0	0
10	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	5	0	0	0	0	5	0	0
11	7	トム・ディルマン Tom Dillmann	5	0	0	5	0	0	0	0
12	64	ナレイン・カーディケヤン Narain Karthikeyan	4	0	0	4	0	0	0	0
13	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	4	4	0	0	0	0	0	0
14	4	山下 健太 Kenta Yamashita	4	0	0	1	0	3	0	0
15	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	3	0	0	3	0	0	0	0
16	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	0	0	0	0	0	0
	37	J-ロスター James Rossiter	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	0	0	0	0	0	0	0	0
	18	中山 雄一 Yuichi Nakayama	0	0	0	0	0	0	0	0
	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	ピエトロ・フィッティパルディ Pietro Fittipaldi	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	0	0	0	0	0	0	0	0
	36	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ Joao Paulo Lima De Oliveira	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	阪口 晴南 Sena Sakaguchi	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝 下線：予選1位

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	3 4	KONDO RACING (コンドー レーシング)	30	2	0	9	10	9	0	0
2	1 2	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ビーエムユーセルモインギング)	29	5	0	0	14	10	0	0
3	19 20	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL (イトウチウエネクス チーム インバル)	24	8	0	0	8	8	0	0
4	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	23	10	0	10	1	2	0	0
5	5 6	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディオンレーシング)	14	6	0	2	0	6	0	0
6	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	11	1	0	6	4	0	0	0
7	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	11	0	0	5	2	4	0	0
8	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	8	4	0	4	0	0	0	0
9	18	carrozzeria Team KCMG (カロツェリア チーム ケーシーエムジー)	3	0	0	3	0	0	0	0
10	17	REAL RACING (リアル レーシング)	3	3	0	0	0	0	0	0
	50	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝

*チームポイント：各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、予選1位のポイントは与えられない。

—開催概要—

- 大会名称 : 2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦 岡山国際サーキット
- 開催日程 : 2018年9月8日(土) 公式予選
2018年9月9日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : 岡山国際サーキット(1周:3.703km)
- 主催 : 株式会社 岡山国際サーキット アイダクラブ(AC)
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
日本フォーミュラスリー協会(JF3A)
- 同日開催 : 2018年 全日本フォーミュラ3選手権 第13戦 第14戦
2018 N-ONE OWNER'S CUP Rd.12
ロードスター・パーティレースIII 西日本シリーズ第3戦

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦『2018スーパーフォーミュラ第6戦 岡山国際サーキット』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。ピエール北川による場内実況がサーキットの臨場感をそのまま伝え、ピットの緊迫した状況をレーシングドライバー 松田次生と、東(ひがし)美樹がレポートします。今大会、解説者にモータージャーナリストの古賀敬介を迎え、鋭くまたわかりやすく解説をします。

○実況：ピエール北川

○解説：古賀敬介

○ピットリポーター：松田次生、東(ひがし)美樹

○放送時間：2018年9月9日(日) 17:00～18:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

SF14ラストイヤー、全戦2スペックタイヤ制など話題が豊富な2018シーズンのレースダイジェストをレギュラーコメンテーターの小林可夢偉とゲスト解説の松田次生がレースを分析。また、ゲストコメンテーターとして登場する現役ドライバーやチーム関係者、レース好きの著名人などと共にホットなニュースを深堀りします。

番組に華を添えるのは、進行を担当する本田朋子アナ。ナレーターは今年で番組3年目となる乃木坂46の樋口日奈が担当します。

《放送予定時間》

第6話：2018年 9月 1日(土) 23:00～23:55

2018年 9月 2日(土) 26:00～26:55(再放送)

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

詳しくは jsports.co.jp をご参照ください。

第6戦 岡山国際サーキット

予選 2018年 9月 8日(土) 15:05～(予定) J SPORTS 3 <生中継>

決勝 2018年 9月 9日(日) 13:35～(予定) J SPORTS 3 <生中継>

【映像の配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了14日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

[superformulavideo-YouTube](https://www.youtube.com/user/superformulavideo)

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

- motorsport.com (配信)
- motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

- オフィシャルWEBサイト
<http://superformula.net>
- 公式LiveTimingアプリ
i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索
- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/superformula.official>
- スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter #sformula
https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

●前売観戦券

- 土日通し: 5,400 円
- 土曜日: 4,300 円
- 日曜日: 5,400 円
- パドックパス: 9,720 円(土日通し)

●前売駐車券(土日各日)

- 4 輪: 1,650 円
- 2 輪: 1,100 円(当日券のみ)

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)
102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル
e-mail: media@superformula.net
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントラント)、国内外19名(19台)のドライバーが転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 21 ~ 22	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km
5 / 12 ~ 13	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
5 / 26 ~ 27	第3戦/スポーツランドSUGO	ノックアウト	250 km
7 / 7 ~ 8	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 18 ~ 19	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 8 ~ 9	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 27 ~ 28	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km ※

※：レース距離は暫定。

2018年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー: 当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

●チームポイント: 各チーム(エントラント)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。

同一チーム(エントラント)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。

チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からも注目を集めるようになりました。
来シーズンは、新車両の「SF19」の導入が予定されておりますので、現行車両「SF14」のラストランの年であります。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。
このエンジンの特徴としては、「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。
厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。
このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みで、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。
SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。
またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

2018シーズンは全7戦において、「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」を使用する2スペックタイヤ制が導入されます。チーム戦略の多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開が期待されます。